

## 看取り事例 (在宅②)

在宅) 在宅看取りの予定が、入院し病院で亡くなった事例

(概要)

97歳 男性 認知症 長男夫婦、孫夫婦と同居、要介護5

(経過)

肺炎で入退院を繰り返していた。排せつ、保清、食事介助が必要な状態であったがキーパーソンの長男の嫁が指導を受け退院となる。2週間のショートステイを使用して在宅生活開始。本人の妻を本人と長男の嫁で看取った経験あり。往診、訪問看護利用開始。訪問看護師より指導を受け介護するうちに、長男の嫁は、在宅介護に自信を持ち在宅看取りを考える様になった。1週間ごとのショートステイと在宅生活を繰り返し3か月ほど経過したところで熱発あり。在宅医と訪問看護よりこのまま在宅で看取ることについても説明されたが、家族は、入院治療でまた元気になることを期待して在宅医からの手配で病院入院。一時的に状態回復したが、入院中に死亡された。

(本事例で達成できていること)

(本事例から見える課題)

(目指す姿の達成に必要な要素)

令和2年9月30日(水)までに高齢福祉課にご提出ください。

提出先(担当外山) : E-mail: toyama-yoshimi@city.anjo.lg.jp または FAX 0566-74-6789